

目 次

はしがき	i
序 章	I
菊地 茂雄、杉浦 康之	
1. ウクライナ戦争をめぐる研究動向	2
2. 本書のアプローチ	4
3. 各章の概要	5
第1章 中国人民解放軍に対するウクライナ戦争の教訓	II
——台湾有事への影響を中心に——	
杉浦 康之	
はじめに	12
1. 人民解放軍による軍事ドクトリン・作戦構想・	
軍事力運用方針の再確認	14
2. ウクライナ戦争を踏まえたうえでの調整	25
おわりに	41
第2章 中国が想定する将来の航空戦	45
——人民解放軍はウクライナ戦争から何を学んでいるのか——	
相田 守輝	
はじめに	46
1. これまで人民解放軍が想定していた航空戦	48
2. 中国が認識した現代航空戦の難しさ	52
3. 中国が再認識した航空作戦計画の重要性	56
4. 中国が評価した長距離スタンドオフ攻撃	59
5. 中国が評価したドローン作戦の深化と戦争形態の変化	63
6. 智能化戦争に向けた新たな着想	69
おわりに	73

第3章	台湾の軍事戦略と防衛作戦準備	77
	——中国の侵攻に備えたレジリエンスの強化——	

五十嵐 隆幸

- はじめに 78
- 1. 中国による台湾侵攻の可能性 81
- 2. 中国の武力侵攻を迎え撃つ台湾の軍事戦略 87
- 3. 中国の台湾侵攻作戦に備えた軍事力整備 92
- 4. 全民防衛体制の構築 108
- おわりに 114

第4章	現代戦と核の影	117
	——ウクライナ戦争と台湾有事における核の盾に関する比較考察——	

前田 祐司

- はじめに 118
- 1. ウクライナ戦争における核の影 119
- 2. 安定・不安定のパラドックスと核の盾の有効性 126
- 3. 台湾有事における核の影 138
- おわりに 154

第5章	米国のウクライナ間接介入モデル	159
	——台湾情勢への軍事的影響と適用可能性——	

切通 亮

- はじめに 160
- 1. 間接介入モデルとしてのウクライナ支援 164
- 2. ウクライナ支援の対中抑止への影響 178
- 3. 台湾有事における間接介入モデルの有効性 195
- おわりに 210
- コラム：バイデン vs トランプ——ウクライナ関与政策の比較—— 175

第6章	対中拒否戦略と米軍作戦コンセプトの 西太平洋における展開	213
-----	---------------------------------	-----

菊地 茂雄

- はじめに 214
- 1. 西太平洋における分散型作戦の展開 214
- 2. 戦略的競争における「キャンペーニング」 251
- おわりに 278
- コラム：ラビッドラプターから「機敏な戦闘運用」(ACE)へ
——米空軍の分散型作戦構想の展開—— 247

終章		281
----	--	-----

杉浦 康之

- 1. 米中台に対するウクライナ戦争の軍事面での影響 282
- 2. 台湾有事の蓋然性に影響を及ぼす要因 284
- 3. 台湾有事における「新たな戦争」の諸相 287

索引 294

編著者・執筆者紹介 302